

# 松 風

## 福島県公立学校退職校長会

会長あいさつ…………… 1  
 評議員会報告…………… 2  
 論壇、令和6年度重点事項、他…………… 3  
 令和6年度役員名簿、理事会報告、他……… 4

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階  
 TEL (024) 534-5411  
 FAX (024) 531-1195

### 会長あいさつ

### 「創立六十年、先達の熱き思いを継承した 人生百年時代に相応しい 本会活動の充実を目指して」



福島県公立学校退職校長会  
 会長 福 士 寛 樹

本会は、戦後二十年目と  
 いう節目の昭和四十年四月  
 九日、福島市「借楽亭」(福  
 島県庁東側の紅葉山公園に  
 あった。)において会員数三  
 百八十六名で発足してから、  
 今年六十年を数える。折り  
 しも、令和五年度末に役職  
 定年を迎えた校長先生方が、  
 ちょうど生まれたころに設  
 立されたことになる。どの  
 ような背景や理由、経緯か  
 ら設立されたのであろうか。  
 これまでに作成された「あ  
 ゆみ」を紐解いてみた。

昭和三十年代当時の教育  
 界においては、勤務評定阻  
 止、教育課程反対、学力テ  
 ストの阻止などの闘争、大  
 学紛争、青少年非行など激  
 動の時代だったことから、教  
 育の正常化を望む声が高ま  
 り、本会の運動の目標とし  
 て次の三点を挙げ、設立を  
 目指したと記されている。  
 ○本県並びに日本教育の正  
 しい発足に総力を結集す  
 る。  
 ○経済の変動に伴う恩給年  
 金のスライド制を確立促  
 進する。  
 ○会員相互の親睦を図り、  
 同志の団結を深める。  
 設立に当たり、元県小・  
 中学校長会長を発起人、県  
 内の市町村小・中学校長会  
 長を準備委員として、趣意  
 書・入会申込書・会則案を  
 作成し、県教委・市町村教  
 委及び現職の県小・中学校  
 長会の全面協力を得て、こ  
 れらの書類を各学区内の居  
 住する退職校長あてに配付

していただき、退職・現職  
 の校長が力を合わせて本会  
 設立に力を注いだのである。  
 また、全国的にも早期の設  
 立で他に例を見ない優れた  
 組織(十六支部がほぼ同時  
 に発足、小中高の校種を一  
 本化、行政機関との円滑な  
 連携)として評価された。  
 現在、設立当時に比べ五  
 倍に増えた二千六百名を超  
 える会員が、各支部におい  
 てそれぞれのお立場で生き  
 生きと活躍しているが、実  
 は本会の会員数は、年々減  
 少し続けている。その原因  
 を探ってみると、学校の統  
 廃合等による学校数減少に  
 伴う校長数の減、現職の校  
 長先生方の価値観の多様化  
 や本会以外の諸団体への重  
 複加入の会費負担感、年金  
 受給までの勤務の必要性、  
 地方公務員法の一部改正に  
 よる退職年齢の延長なども  
 入会を妨げている一因かと  
 思われる。そういった外的  
 要因を問題視するばかりで  
 なく、私たちの活動が人生  
 百年時代と言われる今に相  
 応しいものか、私たちの活  
 動する姿やその内容が魅力  
 的かを絶えず評価し改善し  
 ていく必要がある。

県事務局としては、広報  
 誌「松風」の充実とともに、  
 情報発信や事務の効率化を  
 進めるためにDX(デジタ  
 ルトランスフォーメーショ  
 ン)化を推進し、一昨年、  
 念願のホームページを開設  
 した。本会活動の概要や成  
 果の紹介、県大会、現役支  
 援や社会貢献活動の重要  
 性、現役の声を反映させた  
 関係機関への要望活動の様  
 子や成果、研修、県内十六  
 支部の活動の紹介などタイ  
 ムリーにアップしている。  
 先日令和六年度の評議員  
 会を開催し、活動内容や予  
 算等が満場一致で承認され  
 た。県大会は、創立六十年  
 記念大会として、六月十二  
 日に「二本松御苑」で開催  
 されることも承認された。  
 また、第五十回東北地区退  
 職校長会協議会福島大会も  
 十月八、九日にホテル福島  
 グリーンパレスで開催する。  
 例年以上に忙しくなりそ  
 うであるが、今後とも設立  
 当時の先達の熱き思いを継  
 承しながら、今の時代に相  
 応しい充実した活動となる  
 よう県内十六支部との連携  
 を深めながら、取り組んで  
 参りたい。

# 令和六年度 評議員会報告

## 定年引上げに係る福島県公立学校退職校長会則の 一部改正について

創立六十年記念第五十八回県大会二本松大会について  
第五十回東北地区退職校長協議会福島大会について  
記念誌「60年のあゆみ」作成について

令和六年度評議員会は、  
令和六年四月三十日(火)、  
福島市吾妻学習センターで  
開催された。なお、会に先  
立ち、福島県教育庁社会教  
育課長小林 雄様より「本  
県の社会教育について」と  
いう題で講話をいただいた。

### 一 会長あいさつ

### 二 報告

○定年引上げに係る福島県  
公立学校退職校長会則  
の一部改正について

○令和五年度事業報告につ  
いて

○令和五年度会計決算報告  
について(本頁下の通り、  
ぬくもり基金は三頁下)

○慶弔関係について

・令和五年高齢者叙勲三十  
七名(前年比二十一名減)

・令和五年度物故会員百四  
名(前年度比十五名増)

### 一部改正について

○新入会員加入勧誘予定者  
数について

・小学校五十三名・中学校  
三十九名・高等学校十六  
名・特別支援学校二名、  
計百十名(前年度比二十  
名減)

○新入会員の勧誘並びに事  
務手続きの確認について

○感染症にかかるガイドラ  
インについて

○第五十回東北地区退職校  
長協議会福島大会につい  
て

・期日：令和六年十月八日  
(九日)

・会場：ホテル福島グリー  
ンパレス

○福島県公立学校退職校長  
会記念誌「60年のあゆ  
み」作成について

○能登半島地震義援金につ  
いて

### 三 協議

協議のうち、下記の項目  
は原案のとおり承認された。

○令和六年度活動の重点目  
標(案)について

(重点目標は三頁参照)

・福島県公立学校退職校長  
会運営ビジョン(案)

・福島県公立学校退職校長  
会デジタル化(DX)ビ  
ジョン(案)

・社会貢献活動推進概念図  
○令和六年度事業計画  
(案)について

○令和六年度予算編成の方  
針(案)、会計予算(案)  
について

(予算は本頁左の通り)

○創立六十年記念第五十八  
回福島県公立学校退職校  
長会二本松大会について  
(案)

○令和六年度要望活動(案)



評議員会の様子

について

・令和六年度教育懇談会開  
催要項(案)について

### 四 事務連絡

○令和六年度「寿詞・賀寿・  
賀詞」該当会員名簿、令  
和六年高齢者叙勲該当者  
名簿について

○令和七年度「寿詞・賀寿・  
賀詞」該当者名簿の調査  
について

○令和六年度「支部事務の  
手引き」について

○会員名簿の作成及び配付  
方法について

○福島県公立学校退職校長  
会ホームページについて

## 令和5年度会計決算報告

収入総額	4,554,353円
内訳	
・会費	3,624,300円
・雑収入	80,011円
・繰越金	850,042円
支出総額	4,076,458円
内訳	
・会議費	557,504円
・事務費	473,700円
・事業費	1,891,034円
・会費・負担金	999,440円
・積立金	150,000円
・予備費	4,780円
差引残額	477,895円

※差引残額は次年度への繰越金とする。

## 令和6年度会計予算書

収入総額	4,100,895円
内訳	
・会費	3,543,000円
・雑収入	80,000円
・繰越金	477,895円
支出総額	4,100,895円
内訳	
・会議費	579,000円
・事務費	480,000円
・事業費	1,872,000円
・会費・負担金	995,000円
・積立金	130,000円
・予備費	44,895円
差引残額	0円

『Back to Basics』（基礎・基本に返れ）、大学卒業ゼミで指導教官がよく話されていた言葉である。何かあるとなぜかこの言葉が浮かぶ。本来の意味と少し異なるが、いつも自分で『原点に戻れ』と置きかえ解釈していた。

青葉繁れる昨年六月に教職初任地只見町を訪れた。かつて同じ町に同じ頃に通った。

し勤めた数人で連れだつて訪れた。只見線は、福島

新潟豪雨で被害を受け川口・只見駅間不通となった。令和四年十月やっと全線再開通した。再開通直後は混雑した。都市部の通勤列車のようでは津若松駅から只見駅まで立ち通しということもあつたと聞く。しかし、訪れたのは平日で、再開通祝賀ムードも一段落し混雑せずに乗車できた。初任地に赴いたのは、

論壇

原点 回 帰

副会長 飯沼 信 一



大学新卒時で、わずかばかりの知識と爪先ほどの指導力、全く教員として力量不足だった。それでも世の中が穏やかだった。新卒教員でもたった一人で分校（小一〜三年七人）の教壇に立たせていただけだ。頑張りうという思いだけはあつたの思い出す。分校校舎の一室で自炊しながらの勤務一年、その後本校で二年、計三年間勤めた。当時は頑

ニューアルした所もあり懐かしさと頼もしさを感じた。要害山や蒲生岳の姿は、相変わらず急峻であつた。要害山には、自分達の町の様子を山の上からは非見せたいという同学年の先生、小学三年生の子供達と一緒に日曜日に登った。上から俯瞰することで地域を見る目を広げたいという思いだつた。学校に話さず行つた山登りだった。後で教頭先生に「このことは聞かなかつたことにす

張つたつもりでも、もつとやれたことがあつたと後悔しきりである。それでも先生として受け止めてくれた子供達、保護者、地域に感謝の念に改めてかられた。訪れた町は、様変わりしていた。勤めた校舎も一回り小さくなり、シャッターの降りた店や消えた施設もあつた。豪雨災害の傷跡もあつた。そんな中でも、昔ながら頑張る店や旅館、リ

る。」とやんわり指導されたことが思い出される。彼の地からスタートし三十八年間教員生活、退職後も一社会人として脇から教育現場を応援しつつ今に至る。良くも悪くもいつも原点があそこにあつた。初任地訪問で原点回帰、老化した自分を少しブラッシュアップできたように感じる。

令和六年度 重点目標

次の項目が本年度の重点目標として承認された。

- 本会が抱える諸課題の解決に向けた活動を強化する。
- 会の将来ビジョンの具現
- 会員減少と会員の高齢化への対応（役職定年者と未加入会員への勧誘）
- 県事務局ホームページの充実、デジタル化（DX）の一層の推進と広報誌「松風」の充実
- 学校・現役校長・教育委員会等に対する協力
- 社会貢献活動等の奨励と活動機会の拡充
- 県教委・福島大学等との連携による教員の魅力発信
- 要望活動のさらなる充実
- 創立六十周年記念事業の準備
- 第五十回東北地区協議会福島大会の円滑な運営
- 県小・中校長会及び高等学校校長協会、県教育委員会からの要望などに応えるとともに、支部間の連絡

令和5年度めぐもり基金決算報告

収入総額	910,918円
内訳	
・繰越金	910,911円
・利子	7円
支出総額	176,000円
・郡山大会助成金	60,000円
・二本松大会助成金	60,000円
・各支部へ助成金（デジタル化）	56,000円
差引残額	734,918円

調整を強化し、学校支援事業、地域学校協働活動などの教育振興のための社会貢献活動等の充実と拡大を図る。

○「双葉の灯を消さない」よう、被災・避難された支部・会員への支援活動を継続し、東日本震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災体験を風化させない活動を継続する。

○感染症にかかるガイドラインに基づき、本会運営を徹底する。

● 令和六年度県大会は、創立六十年記念大会として二本松市で実施する。

令和6年度 福島県公立学校退職校長会役員名簿

(令和6年4月30日現在) (敬称略)

Table with columns for roles (顧問, 会長, 副会長, 監事, 評議員) and names of members across various regions (南会津, 相馬, etc.).

令和五年度 理事会報告

令和六年三月六日(水)、令和五年度の理事会が福島市吾妻学習センターで開催され、報告事項、協議事項とも了承された。なお、会に先立ち、福島県教育庁教育総務課長 堀家健一様より、「福島ならではの学びの変革を目指して」という題で講話をいただいた。

◆主な報告事項

- 福島県公立学校退職校長会会則(組織)第4条の一部改正
第五十七回郡山大会
令和五年度事業報告
令和五年度会計決算中間報告、令和五年度ぬくもり基金中間報告
令和五年度新入会員数及び会員数
慶弔関係
福島県公立学校退職校長会ホームページ
第五十回東北地区退職校長協議会福島大会
記念誌「60年のあゆみ」作成
クラブ活動状況調査報告書

◆能登半島地震義援金

◆主な協議事項

- 令和六年度活動の重点目標(案)
令和六年度事業計画(案)
令和六年度予算編成の方針(案)、令和六年度会計予算(案)
創立六十年記念第五十八回福島県公立学校退職校長会二本松大会
令和六年度「要望活動」の方針(案)
令和六年度教育懇談会実施要項(案)
連絡事項
令和六年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員名簿、令和六年高齢者叙勲該当会員名簿



理事会の様子

講話

「福島ならではの学びの変革を目指して」

福島県教育庁教育総務課長 堀家 健一様



- ①学びの変革推進プラン
②福島県の教育と現状
③福島ならではの学びの変革を目指して
児童生徒の学力向上
教員のICT活用指導力の向上、ICTを活用した学びの変革
不登校対策
児童生徒の運動習慣形成
豊かな心の育成
※詳しくは、本会ホームページをご覧ください。

お詫びと訂正

「松風」第一九一号に誤りがありましたので、訂正方お詫び申し上げます。
◆四頁《趣味と生きがい》一段目

誤…(益略手前)
正…(益略点前)